

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 神崎 明坤	職名 教授	学位 修士 教育学 九州大学 1995年
----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研究課題
① 中日の近代における思想家の道德修養に関する研究 ② 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
入門中国語会話(前期)		○	
中級中国語(前期)		○	
中国の社会と文化(前期)		○	
初年次セミナー(前期)	○		
基礎中国語(前期)		○	
応用日本語(後期)		○	
専門演習Ⅱ(通年)	○		
卒業研究(通年)	○		
初級中国語会話(後期)		○	
上級中国語(後期)		○	
中国語通訳ガイド演習(後期)		○	

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【 入門中国語会話 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 初級中国語会話 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 中級中国語及び基礎中国語 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 上級中国語 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 中国の社会と文化 】

グローバルゼーションの時代に異なる文化を持つ諸社会がお互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国—中国のことを幅広く学び、考えながら異なる社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。

1. 講義ならびにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
4. 中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実際調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

授業科目名【初年次セミナー】

本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身につけていることがこの授業の旨である。

1. 講義並びにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高く向上させ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文化漢字や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の日本文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

1. この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでもらい、その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
2. 日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。
3. 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名【 卒業研究 】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

1. 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
2. それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員との交流を通し、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
3. 仮説を論文として展開する力を養い、学生のオリジナルな論文を書くことを心がけてもらい、最終的に論文完成させる工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
九州中国学会	会員	1998年5月～現在に至る
九州教育学会	会員	1994年～現在に至る
日本比較文化学会	会員 (理事)	2011年～現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 中国の高等教育カリキュラム改革について	単著	2019年6月28日～29日	日本比較教育学会55回 東京外国語大学にて	2010年、中国の高等教育において、中長期教育改革・発展計画綱要を発表した。2015年中国の教育部「世界一流大学及び一流学科の構築を目指すプロジェクト」では「道德の樹立、人間お育成、主体的な学修教育への転換」人の全面的発達と社会の要請への適応の教育の質が求められている。従って高等教育の学士課程教育の構築が大きな課題となっている。特に学生の学習成果をどのようにあげるかが一つ焦点となっている。その中にカリキュラム改革が幅広く抜本的に進められている。その趣旨は大学生の総合的な能力の育成を理念として掲げ、従来の狭い専門教育偏重から深い教養教育と高い資質教育及び広い専門教育とのバランスを図るカリキュラム、教育内容への方向転換してきたことである。本研究の目的は重点大学と一般大学のカリキュラム調査の内、大学の教育の質的变化をカリキュラム問題に焦点を当てて、教養教育の実態の因子分析を行い、結果を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究～教養教育を中心として～	西南女学院大学	○神崎明坤 古川敬康 (林楽常、呉雲珠、張曉鵬)	1,229,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

○ 宗教主事補